

追悼の辞

昨年11月に小泉和重先生が急逝されて、1年近くが過ぎました。

私が先生の突然の訃報を聞いたのは大学への出勤途上のことでした。前の週まで、親しく会ってお話しさせていただいていたのに、まさかの知らせに信じられない思いでいっぱいでした。何の前触れもないまま突然の病で亡くなられたこと、返す返すも残念なことです。先生には変わらずお元気で活躍いただき、また後進の我々を見守っていただきたいと思っていたのに、余りにも早い別れに言葉ありません。

小泉先生は九州大学経済学研究科博士後期課程で学ばれた後、1995年4月、その前年に設立されたばかりの熊本県立大学総合管理学部に助手として着任されました。その翌年には講師、2002年に助教授、そして2008年に教授にご昇任されるなど、一貫して本学において教育研究に携われ、学生の指導にご尽力いただいたところです。

先生のご専門は財政学でした。ご自身の研究の成果を著書にまとめられた2004年の『アメリカ連邦制財政システム―「財政調整制度なき国家」の財政運営―』は各方面から高い評価を受け、第30回東京市政調査会藤田賞、第5回日本地方財政学会佐藤賞などの栄えある賞を受賞されました。また、2010年から1年間、カリフォルニア州立大学パークレイ校で在外研究に従事され、そこでの研究成果は2017年の著書『現代カリフォルニア州財政と直接民主主義―「納税者の反乱」は何をもたらしたのか―』に結実したところです。その後も先生は精力的に研究を続けて来られました。近年では平成の大合併後の自治体財政についての研究に注力され、特に合併しなかった小規模自治体について深く考察を行われました。

教育の面においても、小泉先生は熱意を持って取り組まれました。ご自身の専門である財政学の講義をはじめ、経済・財政関連の講義をわかりやすく伝える先生の講義は常に学生から人気がありました。また、先生はゼミの学生たちに対しても熱心な指導を行われていました。先生のゼミは公務員志望の学生も多く、その学生たちに一人ひとり時間を割いて面接の指導や進路の相談を行われているお姿を日頃から拝見して、学生を大切にする姿に胸が熱くなったものです。

社会連携の分野でも、先生は積極的に取り組まれていました。様々な自治体の審議会で委員を務められたほか、県や市町村の財政問題に関するマスコミからの取材なども一手に対応されておられました。また、学術面では、日本財政学会、日本地方自治学会、日本地方財政学会に所属され、これらの学会における活動にも取り組まれました。お亡くなりになる直前、理事を務められていた日本地方自治学会において、「小規模自治体の教育財政と地域振興」というテーマで発表をされ、また、本学部の紀要『アドミニストレーション』に「小学校統廃合の財政問題と廃校舎の利活用：小規模山村自治体を対象に」との論文も投稿されておられました。両方とも、これまでの財政学の常識とは異なる新たな理論の可能性を提示するものであり、かつ、小規模な自治体に対する暖かい視線を持った優れたものでした。それだけに、先生の早すぎるご逝去が一層悔やまれます。

2022年4月からは、大学院アドミニストレーション研究科長にご就任いただき、学部・大学院の運営に携わっていただいております。本学の更なる発展に向けて、先生のお力を存分に發揮していただくという矢先に突然旅立たれたこと、誠に残念でなりません。残された教員一同、先生が愛してやまなかったこの熊本県立大学において、先生のご遺志を引き継いでこれからも教育研究に尽力していく所存です。

ここに先生の名を冠した本追悼論文集を捧げ、私たちの感謝の気持ちを表したいと思います。小泉先生、どうか心安らかにお眠りください。

2023年10月

総合管理学部長 澤田 道夫